

発行所  
長野県保険医協会  
〒380-0928 長野市若里 1-5-26  
電話 026-226-0086  
FAX 026-226-8698  
E-mail nagano-hok@doc-net.or.jp  
年間購読料 3,600円  
会員の購読料は会費に含まれています



2018年(平成30年)10月25日  
No.452 (毎月1回25日発行)  
(1990年6月22日第三種郵便物認可)

主な記事  
歯の供養祭、歯のなんでも電話相談…2面、医院ホームページ講習会…3面、理事会便り、保険かわら版…4面

## 10.11 憲法・いのち・社会保障を守る国民集会 全国から3700人参加、憲法いかして社会保障守ろうと訴え

10月11日、日比谷野外音楽堂で保団連らが実行委員会に加わる「憲法・いのち・社会保障まもる10.11国民集会」

が開催され、全国から3700人の医療・介護従事者らが集まり、長野協会からは市川副会長、林副



署名を呼びかける林副会長

会長及び事務局が参加した。日本医師会長、日本歯科医師会長からも賛同のメッセージが寄せられた。

集会前には、日比谷公園内で署名活動を行い林副会長も道行く人々に声をかけ署名を呼び掛けた。

今回の集会は臨時国会への憲法改正案提出に意欲をみせる第4次安倍改造内閣発足直後ということもあり、平和憲法をまもりいかすことはいのち社会保障をまもることにつながるとし、壇上に憲法25条を守り活かすの文字を掲げた。主催者代表の日本医労連

森田中央執行委員長は「国民の命を守り、健康的な暮らしに責任を持つ私たち医療・介護従事者は命や人権を破壊する戦争には絶対反対です」と社会保障の解体、戦争する国づくりは許さないことを国民に訴えましようと呼びかけた。

リレートークでは認知症の人と家族の会の大野氏は「利用者負担は増えサービスは縮小し続けている。家族負担、家族責任がまず最初では困る。国には現状をしっかりと把握して欲しい」と訴えた。全国医師ユニオンの植山代表は医師の過酷な労働実態を紹介し、「医者健康を守れないだけではなく、医療の安全性にとっても大きな問題がある。国民皆保険を守るためには、医師、看護師など医療に従事する人的資源をつくることに国は真剣に取り組むべきだ」と労働現場の改善を訴えた。岩手から参加した藤田氏からは介護現場の深刻な人手不足とその背景にある介護保険制度の改悪、進まない身分保障、雇用形態と低賃金の実態が報告された。長野県の看護師の高島氏は現場の忙しさや人員不足は一向に解消

されておらず、看護労働アンケートでは20歳代で半分近い人が健康に不安を抱えているとし、「若い看護師が夢を持ち続け、熟練した看護師が生き生きと働き続けるためにも声を上げたい」と表明した。西日本豪雨災害に遭った岡山の病院の山下氏は災害直後に医師を中心とした多職種で行った避難所への医療や相談の訪問活動の報告をし、「復興にはまだまだ時間がかかり「避



全国から医療・介護従事者らが参加した集会

難者が家に帰るまでは災害です」を合言葉に避難者に寄り添った支援を継続していきたいと決意を述べた。最後に、○国の責任で、いのちと人権が大切にされる社会保障の拡充、○医療、

看護師、介護職員、保育士などの大幅増員・処遇改善、○患者・利用者の負担増ストップ、○長時間労働なく、安心して住み続けられる地域を、○憲法改悪反対！戦争いやだ！平和なく

して医療・介護・福祉なしを国に対して求める集会アピールを採択し、「いのちまもる」と書かれたプラカードを厚生労働省に向けてかざしシュプレヒコールをあげた。

### 長野県保険医協会 経営セミナー 医療現場のクレーム-患者対応の在り方

医療現場で増え続けるモンスターパジェント。悪質クレームと遭遇したらどう対応すればいいのか。

民暴のカリスマ弁護士の異名を持つ深澤直之氏にご講演いただきます。

講師 右田・深澤法律事務所 弁護士 深澤直之先生

<講師からのメッセージ>

クレーム患者からの医業者への執拗な不当要求には、毅然と拒絶し排除することが必要です。医業者がクレームに委縮しては、大事な患者の治療などできないし、閉院に追い込まれ、医療が委縮するだけです。クレームの見極めと対応の根幹は、特別扱いの厳禁であり、患者平等原則を貫徹することです。応召義務も正当事由があれば診療拒否していいと知り実践することが重要です。必要以上に説明責任を尽くさなくていい等のほか、企業も役所も病院も困っているクレーム撃退方法をこれまでの実績から披露します。

日時 11月11日(日) 14:00~16:00  
場所 ホテル JAL シティ長野 長野市問御所町 1221  
電話 026-225-1131

参加費 会員無料

お申込み・お問合せ 長野県保険医協会 TEL 026-226-0086 FAX 026-226-8698



### 財政審で医療・介護の改悪案

財務省は10月9日に行われた財政制度等審議会の分科会で、75歳以上の後期高齢者について医療機関での窓口負担を現行の1割から2割への引き上げや、一定以上の金融資産を保有する高齢者には医療・介護での負担増を求めるなどの改悪案を列挙した。また、2019年10月に予定されている消費税率10%への引き上げに伴って医療機関が負担する仕入税額相当額に関して、「医療保険制度内での対応」とすべきとの見解を表明した。

署名へのご協力を

長野県保険医協会では、患者負担増の反対と窓口負担の軽減を求める患者署名とともに、医療に「ゼロ税率」の適用と、消費税10%への引き上げ中止を求める会員署名の取り組みを行っています。「ゼロ税率」の適用を求める会員署名については11月15日の国会行動で提出する予定となっています。患者負担増反対の患者署名は11月末が第一次締切となっています。多くの先生方の協力をお願い申し上げます。

今年のノーベル生理学医学賞を京都大学特別教授、本庶佑氏が受賞した。近年では2012年の山中伸弥氏、2015年の大村智氏、2016年大隈良典氏に続く快挙である。がん細胞が生体の免疫機能を逃れる仕組みを解明し「免疫チェックポイント阻害剤」の発見が評価されたのだ。この研究から生まれたのががん免疫治療薬「オプジーボ」だ。すでに臨床応用されこれによって救われた患者さんも多い。一方でこの新薬について度々話題になるのがその価格だ。◆保険適用当初は患者1人あたりの年間薬剤費が3500万円であった。度々薬価の見直しがあり引き下げられ、この11月1日から適用される新薬価は100mgで約17万円。引き下げられたとはいえ患者1人あたり1年間で1000万円以上に及ぶという。さらに最近承認された「キムリア」という新型のがん免疫薬は小児、若年者の急性リンパ性白血病に対して83%の治療効果が認められたというものの、治療1回あたりの薬価が5200万円。人の命は金には換えられないというもののここにきて新薬の価格高騰には驚くばかりだ。ここで繰り返されるのが財政問題だ。年金医療福祉財政の破綻危惧は高齢化社会とともに財務省を中心に根強いものがある。果たして日本に財政問題は存在するのだろうか？◆本庶佑氏のモットーに「常識を疑うこと」という言葉があった。国債残高1000兆円などと言う言葉に振り回されてはいないか？国債発行ではなく必要などところに政府通貨発行して予算向ければ良いだけの話ではないだろうか。政府の言い分は疑って見る必要がある。(F・T)



今年のノーベル生理学医学賞を京都大学特別教授、本庶佑氏が受賞した。近年では2012年の山中伸弥氏、2015年の大村智氏、2016年大隈良典氏に続く快挙である。がん細胞が生体の免疫機能を逃れる仕組みを解明し「免疫チェックポイント阻害剤」の発見が評価されたのだ。この研究から生まれたのががん免疫治療薬「オプジーボ」だ。すでに臨床応用されこれによって救われた患者さんも多い。一方でこの新薬について度々話題になるのがその価格だ。◆保険適用当初は患者1人あたりの年間薬剤費が3500万円であった。度々薬価の見直しがあり引き下げられ、この11月1日から適用される新薬価は100mgで約17万円。引き下げられたとはいえ患者1人あたり1年間で1000万円以上に及ぶという。さらに最近承認された「キムリア」という新型のがん免疫薬は小児、若年者の急性リンパ性白血病に対して83%の治療効果が認められたというものの、治療1回あたりの薬価が5200万円。人の命は金には換えられないというもののここにきて新薬の価格高騰には驚くばかりだ。ここで繰り返されるのが財政問題だ。年金医療福祉財政の破綻危惧は高齢化社会とともに財務省を中心に根強いものがある。果たして日本に財政問題は存在するのだろうか？◆本庶佑氏のモットーに「常識を疑うこと」という言葉があった。国債残高1000兆円などと言う言葉に振り回されてはいないか？国債発行ではなく必要などところに政府通貨発行して予算向ければ良いだけの話ではないだろうか。政府の言い分は疑って見る必要がある。(F・T)